

【施策評価調査】

施策名	1-3-2	民間生活路線バスの維持確保対策		77	高齢者をはじめとした交通弱者の移動手段として、民間生活路線バスの維持確保を行いません。
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	総務企画部 地域安全課	担当	危機管理担当		
		リーダー	戸井田 和明		
環境変化	生活路線バス宇都宮～宝積寺～杉山線が平成21年9月30日をもって廃止となり4便減となった。				現行の民間路線バスの運行に関しては、県及び関係市町と協働を図りつつ運行補助を実施していますが、路線や便数が削減されている現状を鑑み、路線バスの必要性について広域的な視点から検討を加え、新たな運行形態を研究していきます。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①:生活路線バス1日当り便数(便/日)	平成16年度1日当り便数	計画	16便	16便	16便	16便	11便
	16便	実績	↓ 8便	↓ 8便	↓ 15便	↓ 5便	
指標②:生活路線バス1日当り乗客数(人/日)	平成16年度平日1日当り乗客数	計画	260人	260人	260人	260人	130人
	272.5人	実績	↓ 217.8人	↓ 232.1人	↑ 592.1人	↓ 168.5人	
指標③:		計画					
		実績					
◆◇ 指標に関する特記事項 ◇◆	平成21年9月30日で杉山線(元気あつぶ経由含む)が廃止となるため、平成22年度の1日あたりの便数及び1日あたりの乗客数を変更予定 平成18、19年度の指標は、協調補助路線のみの数値であったが、平成20年度は、国庫補助路線の営業収支が一定基準(55%)に達しないために、関係市町も補助の対象となりその分の便数及び乗客数の数値が増えた。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	4,800,000	6,000,000	6,500,000	4,900,000	
	決算	5,181,800	5,949,333	4,857,213	3,914,620	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか? (アウトカム)			
①民間生活路線バス運行補助	当初 4,900,000	維持するバス路線	B	路線バスは、路線沿線の住民の1つの交通手段と確保してきたが、利用者の減少と利便性を考え、公共交通システムの見直しをする中で、10月よりデマンド交通システムに移行しました。それにより、杉山線は9月1日をもって廃止となりました。			
	決算 3,914,620	2路線 / 3路線		今後の方向性(自己評価)	廃止	今後の方向性(総合評価)	廃止
②	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	総合評価	<p>路線バスは、路線沿線の住民の1つの交通手段と確保してきたが、利用者の減少と利便性を考え、公共交通システムの見直しの中で、10月よりデマンド交通システムに移行しました。それにより、杉山線は9月1日をもって廃止となりました。10月からのデマンド交通システムによる移動手段は、町民にとって今までより一層、利便性が高くなっています。</p> <p>継続的に施策展開されたと評価する。デマンド交通システムにシフトすることで、当施策は廃止とするが、今まで路線バスを利用していた方が、新たな交通システムになじむよう、引き続き十分な説明と周知の徹底を図ること。</p>